

Ⅲ 事業概要

1. 診察状況

当センターでは、精神保健福祉相談・精神科デイケアに係る精神科外来診察を行っている。平成30年度の診察状況は、以下の通りである。

(1) 月別診察件数

月 件数	H30										H31			計
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月		
新規(実人数)	6	6	2	1	5	4	4	3	2	0	4	3	40	
再来(延人数)	50	45	42	49	48	31	59	46	43	42	41	46	542	
デイケア診察 (延人数)	7	6	6	7	11	4	9	10	5	6	7	6	84	
計	63	57	50	57	64	39	72	59	50	48	52	55	666	

(2) 新規診察ケース診断別処遇状況(重複有)

処遇 診断名		統合失調症	気分障害	神経症性障害	精神遅滞	発達障害	パーソナリティ障害	物質関連性障害	器質性精神障害	計
		当所継続	医療		1	3				
カウンセリング				2						2
集団療法										0
デイケア	2		17	6		4				29
他機関紹介	医療機関									0
	保健所									0
	その他									0
終 結			3	2		2				7
計		2	21	13	0	6	0	0	0	42

(3) 診断名・年齢別診察件数

診断名	年 齢							
	10才以下	11-20才	21-30才	31-40才	41-50才	51-60才	60才以上	計
統合失調症			2	7	7	5	3	24
気分障害		1	6	12	10	6	4	39
神経症性障害		2	15	5	8	1	1	32
精神遅滞			2	1		1		4
発達障害		1	7	3	1			12
パーソナリティ障害						1		1
物質関連性障害								0
器質性精神障害								0
計	0	4	32	28	26	14	8	112

(4) 精神保健福祉法に基づく指定医診察件数

	精神保健福祉法根拠条文							計
	22条	23条	24条	25条	26条	26条の2	34条	
件数	0	24	6	0	0	0	0	30

2. 精神科デイケア

(1) デイケアの概況

当センターのデイケアは、昭和 58 年度の開所以来、市内の医療機関から患者紹介を受け実施している。回復途上にある精神障害者が自立した生活が送れるようになることを目的に、生活習慣の確立や社会参加・社会復帰促進のための生活指導や作業指導を実施している。

「就労支援・社会参加コース」は、精神科に通院治療している概ね 15 歳以上の仙台市民を対象に、平成 23 年度までは、一日 6 時間、週 4 日定員 60 名の大規模「精神科デイ・ケア」のみで実施してきた。平成 18 年の障害者自立支援法施行後は、本市の障害者福祉計画による整備が進み、就労移行支援や就労継続支援（A・B 型）等、日中活動系サービス事業所数の増加やその活動内容の多様化等により、着実に精神障害者の選択の幅が広がってきている。当センターのデイケアでも所外社会体験や SST(生活技能訓練)・心理教育等のプログラム等に力点を置き、在籍しながら次の移行先事業所への重複通所を支援し、数年で他の社会復帰施設への移行や就労等へのステップアップを目指す目的意識を持った「通過型」である。

通所者の状況として、疾患別人数に変化があり、統合失調症の方の利用者数に比べて、うつ病や強迫性障害、不安障害等神経症圏が増える傾向にある。また、なかなか一日 6 時間から始められない通所者も増えている。平成 24 年度からは一日 3 時間の「ショート・ケア」を取り入れ、少しずつ生活リズムを整え、滞在時間を延長していくなど柔軟なデイケア利用も可能にしたところ通所者延人数が増加した。

うつ病で休職中の方の復職準備性を高める新たなコースとして、平成 22 年 7 月から試行開始し、平成 23 年度からは、定員 10 名・週 2 日（平成 23 年 2 月から）・4 ヶ月間に限定したデイケアとして本格実施した「リワーク準備コース」は、うつ状態を改善し社会参加のための自己回復力を高めるように心理教育や認知行動療法を用い、一定の効果が得られている。

平成 29 年 7 月から平成 30 年 2 月までの期間は大規模改修のため、建物を一時移転してプログラムを実施した。移転に不安を覚える通所者も多かったが、施設や周辺地域の環境変化・交通手段の変化にも相談しながら乗り越え、達成感や成長につながった。周辺環境の利点を生かしたプログラム（料理の買い物、余暇活動拡大のための外出）を行ったことにより、一人暮らしへの訓練や公共交通機関利用時の不安・抵抗感の軽減となった。

平成 30 年 3 月より改修工事を終え、青葉区三居沢に戻った。改修後の建物となり、気分を新たに活動する通所者もみられていた。移転時の活動を踏まえ経験の幅が広がったことで、さらなる成長に繋がっている。

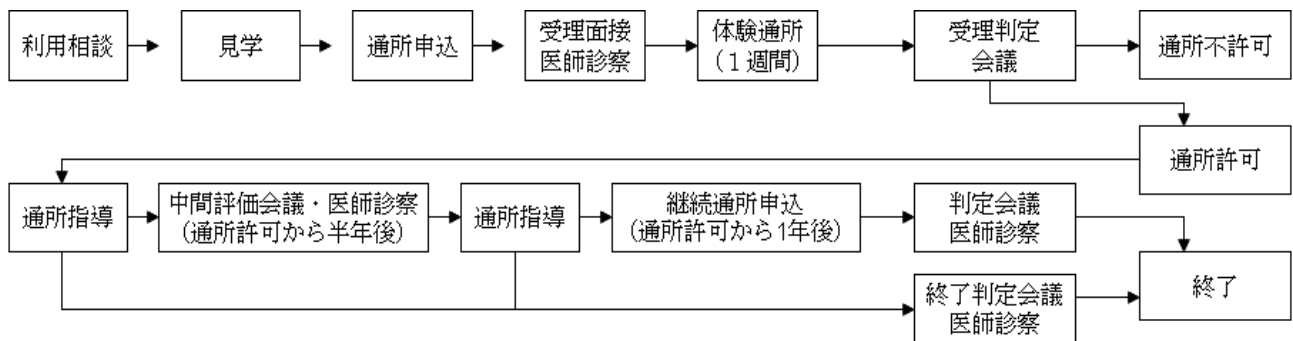
(2) デイケア指導状況

- ・指導期間：平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日
- ・指導日数：就労支援・社会参加コース 182 日（毎週月・火・木・金、祝日等除く）
リワーク準備コース 88 日（毎週月・木のみ）
- ・通所状況：年間の通所者延数は 2,551 名（うち、ショートケア通所者延数は 813 名）
「就労支援・社会参加コース」1,969 名 「リワーク準備コース」は 582 名
平均在籍者数は 44 名。定員に対する充足率は 73.3%であった。

平成 30 年度 デイケア通所状況

コース別	通所者実数			新規通所者実数（再掲）			終了者実数（再掲）		
	計	就労支援	リワーク	計	就労支援	リワーク	計	就労支援	リワーク
総 数	68	43	25	31	11	20	29	9	20
男 性	41	23	18	17	2	15	19	5	14
女 性	27	20	7	14	9	5	10	4	6

○デイケア通所者の受理から終了までの流れ



(3) 就労支援・社会参加コースの指導内容

①通所者の特性（再通所者含む 43 名）

ア. 疾患別分類

神経性障害は 16 名（37.2%）と最も多く、次に、統合失調症 14 名（32.6%）が多い。

疾患名	人数
統合失調症	14
うつ病(感情障害)	10
神経症性障害	16
境界性人格障害	1
広汎性発達障害	2
合計	43

ウ. 利用に至った経路

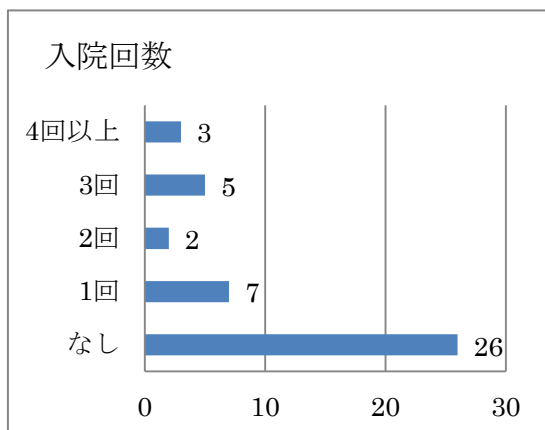
医療機関からの紹介は 16 名（37.2%）、インターネットのホームページ、市政だより等を見て自主来所する方が 14 名（32.6%）家族・親戚のすすめが 8 名（18.6%）である。

利用に至った経路	人数
病院・クリニック	16
自主来所	14
家族・親戚のすすめ	8
区役所	3
社会復帰施設等	2
その他	0
合計	43

オ. 入院回数

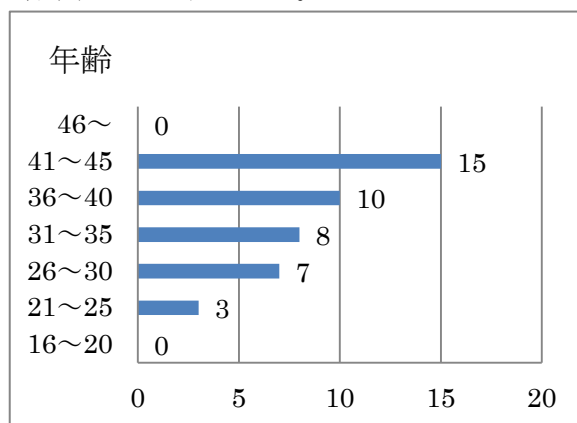
入院歴なし 26 名（60.5%）

入院歴あり 17 名（39.5%）



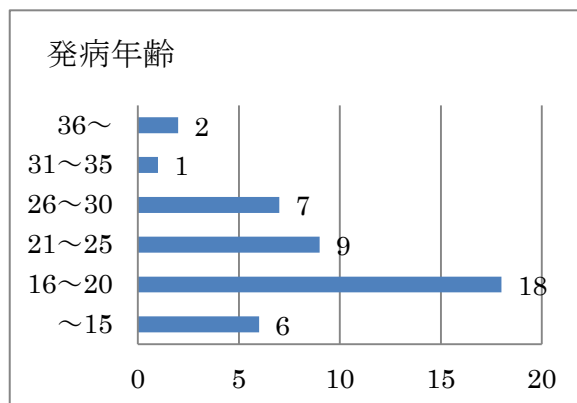
イ. 年齢（対象年齢 15 歳～）

平均年齢は 36.2 歳、最年少は 22 歳、最年長は 45 歳である。



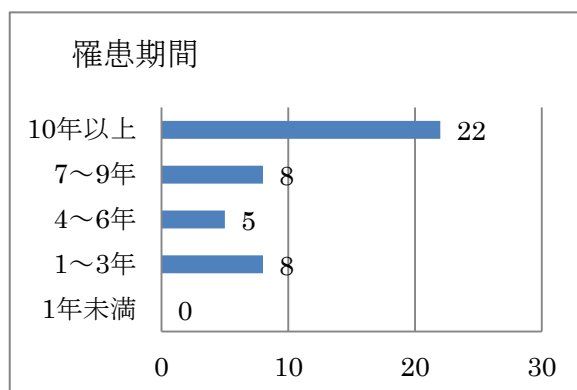
エ. 発病年齢

発病平均年齢 21.4 歳で、20 歳までに 24 名（55.8%）が発病している。



カ. 罹病期間

通所開始まで 10 年以上が 22 名（51.2%）、7 年～9 年以内の罹病期間が 8 名（18.6%）、3 年以内が 8 名（18.6%）となっている。



キ. 学歴

高校卒業が 11 名 (25.6%)、専門学校以上に進学している者は 23 名 (53.5%)、中退 (高校・専門学校・短大・大学・大学院) は 15 名 (34.9%) である。

学 歴	人 数
高校卒	11
高校中退	9
専門学校卒	8
専門学校中退	2
短大卒	2
短大中退	2
大学卒	6
大学中退	2
通信大学中退	0
大学院卒	1
大学院中退	0
合 計	43

ケ. 紹介元

クリニックが 20 名 (46.5%)、病院が 19 名 (44.2%) である。

紹 介 元	人 数
クリニック	20
病 院	19
精神保健福祉センター	4
合 計	43

サ. 家族状況

両親と同居は 24 名 (55.8%)、単身生活者は 7 名 (16.3%) である。

同居家族	人 数
両親(+その他家族)	24(9)
片親(+その他家族)	8(4)
子ども	0
夫	3
単身	7
その他	1
合 計	43

ク. 保険

国民健康保険が 21 名 (48.8%)、社会保険が 18 名 (41.9%)、生活保護は 2 名 (4.7%) となっている。

保険の種類	人 数
生活保護	2
社保本人	3
社保家族	15
国保本人	5
国保家族	16
共済本人	0
共済家族	2
合 計	43

コ. 精神障害者手帳の取得状況

手帳なしは 15 名 (34.9%)、手帳ありは 28 名 (65.1%)。

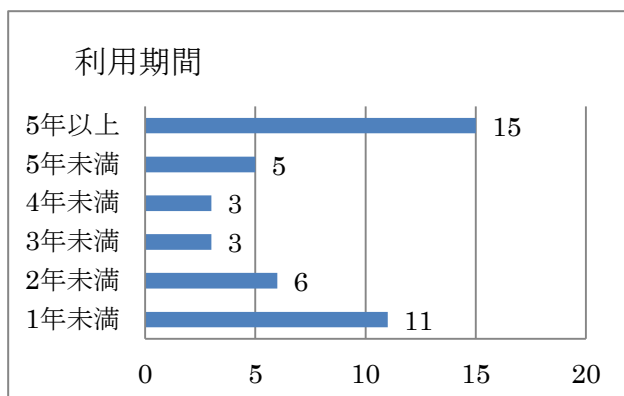
手帳区分	人 数
手帳なし	15
手帳あり	28
1 級	(1)
2 級	(17)
3 級	(10)
合 計	43

シ. 居住地

居 居 地	人 数
青葉区	17
宮城野区	6
若林区	5
太白区	7
泉区	8
合 計	43

ス. 利用期間

5年以上利用している通所者は15名（34.9%）と最も多く、1年未満が11名（25.6%）である。平均利用期間は3年9ヶ月である。



セ. 終了状況（所属及び在籍期間）

終了者は43名中9名（20.9%）である。終了時の所属として社会復帰群は9名中9名（100%）であった。平均在籍期間は3年10ヶ月となっている。

終了時の所属		在籍期間				計
		1年未満	1～2年未満	2～3年未満	3年以上	
社会復帰	障害者雇用	1			1	2
	就労継続支援A型				1	1
	就労継続支援B型	1			2	3
	就労移行支援	2				2
	小規模地域活動センター				1	1
他のデイケア移行						0
療養専念	通院					0
	入院					0
在宅	年齢制限					0
	通所意志喪失					0
合計		4	0	0	5	9

②週間プログラム

プログラムは週単位を基本とし、定期的に講師を招くもの、職員が企画・運営するもの、メンバーの自主性に任せるもので構成した内容を実施している。

当デイケアは、集団プログラムだけではなく、個別の支援にも力を入れており、デイケア終了後を見据えて、地域の社会資源の見学同行、就労訓練先への事業所訪問なども行っている。また必要に応じて担当職員が家庭訪問を実施している。

メンバーの個々の状況の違いに応じて支援できるよう、1～2週に1回担当職員との面接をプログラムに組み込んでいる。様々な不安や焦り、悩み等を聞き、メンバーを取り巻く状況を把握し、デイケア利用の目的や目標の確認・修正及び将来の方向性を一緒に考える時間としている。この枠に限らず必要に応じて臨時面接も実施しており、今年度は特に移転前後の不安や心配なことを確認し、個別フォローを丁寧に行った。

診察は、新規通所受理時、終了時、通所開始後半年ごと（1年の利用期間中6ヶ月目、12ヶ月目）に実施している。主に医療情報を得るために実施しており、それらを基に医学的アプローチやデイケア効果等の検討や評価を行っている。他に、緊急時や必要に応じて臨時の診察も実施している。

<平成30年度週間プログラム>

	月	火	水	木	金
午前	クラブ活動 創作	料理(月1回) / 面接・診察 自遊時間		クラブ活動 合同スポーツ テニス(月1回)	クラブ活動 音楽
午後	ステップアップ 講座	ここまるタイム		コミュニケーション / お茶会(月1回)	セルフサポート塾

※ゼミナールは月1～2回

※体育館スポーツは月1～2回

<各プログラム内容詳細と状況>

心理教育 セルフサポート塾（全19回）	
<ul style="list-style-type: none"> 平均参加人数：9名 担当職員：5名 外部講師：なし <p>*講話、個人ワーク、グループワークなど、多様な形式で行った。</p>	<p>◎ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 心理教育を通して病気との向き合い方の獲得や自己理解を深める。 グループワークを通して、メンバー同士の交流、相互理解を図る。 <p>◎内容および活動の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 疾患の理解や受容だけでなく、リカバリーの視点を持って自身のポジティブな側面に目を向けたり、ストレスマネジメントやアンガーマネジメント、認知行動療法を取り入れ、日常生活をよりよく過ごすための工夫の仕方について実生活を例に考えた。 他メンバーの考えに触れることで、同じ悩みを持つ人がいることの安心感、また視野の広がりを感じることができるとの感想が聞かれた。

実施日	プログラム内容
5/18	金サポ(メンバーが司会・書記を担いテーマを決め相談し合う場)
5/25	あなたの魅力を再発見!①～ほめほめの木～
6/1	あなたの魅力を再発見!②～あなたのトリセツ～
6/8	あなたの魅力を再発見!③～趣味紹介～
6/15	日々の暮らしを丁寧に①～睡眠・運動習慣編～
7/13	日々の暮らしを丁寧に②～食事・生活習慣編～
7/27	やめられない…止まらない…身近に潜む依存の罠
8/10	精神科医との座談会～自分の気持ちの切り換え方など～
8/24	アンガーマネジメント①～どうしてイライラするの?～
8/31	アンガーマネジメント②～イライラをコントロール～
9/14	金サポ
10/12	考え方の“クセ”を考えよう!①
11/16	考え方の“クセ”を考えよう!②
12/14	精神科医との座談会～休息の取り方など～
1/18	金サポ
1/25	ストレスコーピング①
2/1	ストレスコーピング②
2/22	自分の症状の研究者になろう(当事者研究)①

心理教育 コミュニケーション(全18回)

- ・平均参加人数:8名
- ・担当職員:3名
- ・外部講師:なし

◎ねらい

・様々な場面設定における会話や対応の仕方を身につけ、実際の場面に活かしていく。

◎内容および活動の概要

・基本の流れは、①場所のセッティング②ウォーミングアップ③天気気分調べ④ルールの確認⑤その回の内容の実施⑥天気気分調べ⑦ふりかえりシートの記入で実施。

・今年度より「SST」から「コミュニケーション」にプログラム名を変更し、SST以外にもメンバーに必要な内容を幅広く取り入れて実施した(詳細は下表参照)。

・SSTについては、困った場面を取り上げる「基本訓練モデル」や、必要なスキルの獲得の「ステップ・バイ・ステップ」を行った。時期やメンバー構成を見て、臨機応変に内容を変更して行った。

実施日	プログラム内容
4/19	ダイヤモンドランキング 「無人島で生還するために必要なもの」
5/24	困った場面の SST「他の施設に変更したい時の伝え方」
6/14	メールによるコミュニケーション
6/21	SST「角を立てずに注意する」
7/5	コミュニケーションゲーム「意思決定 部長会議」*議論
7/26	困った場面の SST「実習中に体調を崩した際の伝え方」
8/2	アサーション①「アサーション度チェックとロールプレイ」
8/23	アサーション②「傾聴のワーク」
9/6	SST「ほめ言葉を受け入れる」スキルの獲得
9/20	前期振り返り
10/25	困った場面の SST 「苦手な人が会話に入ってきた時の対処の仕方」
11/22	コミュニケーションゲーム 「バスは待ってくれない」「ウミガメのスープ」 *情報共有、相談してコミュニケーションを取り合う
12/6	問題解決技法「人混みで疲れることへの対処方法」
12/20	ダイヤモンドランキング「何を大切にするか（価値観）」
1/10	アサーション③「エゴグラムで自己分析してみよう」
2/7	アサーション④「DESC法で伝えてみよう」
3/7	幻聴妄想カルタを通して、当事者の体験を聞く
3/15	後期振り返り
ステップアップ講座（全 23 回）	
<ul style="list-style-type: none"> ・平均参加人数：9名 ・担当職員：4名 ・外部講師：あり 	<p>◎ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の生活をイメージし、より良い社会生活を送るために必要な知識や技術を身に付ける。 ・グループワークを通して、メンバー同士の交流を図る。 <p>◎内容および活動概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活、余暇、就労に関して、グループワークや講話、体験等様々な形態で活動を実施した。 ・公共交通機関での外出や事業所見学は例年好評であるため今年度も複数回にわたって実施した。また、参加していないメンバーにも情報共有できるよう、振り返りの機会をつくるなど工夫した。

実施日	プログラム内容
4/23	余暇活動を充実させてリフレッシュしよう
5/7	お金の使い方を考えよう①
5/28	公共交通機関を利用して外出しよう！（外出）
6/4	お金の使い方を考えよう②
6/25	事業所見学に行ってみよう！
7/9	将来の自分をイメージしてみよう！ ～合同説明会に向けて～
7/30	将来の自分をイメージしてみよう！ ～自分に合う仕事って？～
8/6	身だしなみチェック
9/7	合同説明会に行こう！（外出）
9/10	合同説明会を振り返ろう！
9/20	前期プログラム振り返り
10/22	身の周りにある社会資源を整理しよう！
11/5	自己分析をしてみよう！短所・長所編
11/15	自己分析をしてみよう！自己PR編
11/26	公共交通機関を利用して外出してみよう（外出）
12/3	事業所見学に行ってみよう！計画編
1/7	生活スキルを磨こう！
1/28	事業所見学に行ってみよう！（外出）
1/29	事業所見学に行ってみよう！（振り返り）
2/4	OB講話
2/28	企業が求める人材とは？
3/11	災害への備え
3/18	後期プログラム振り返り

ゼミナール（全17回）

- ・平均参加人数：10名
- ・担当職員：5名
- ・外部講師：あり

◎ねらい

・リラクゼーションやストレス解消、体力作りや健康維持の方法に関する知識・技術を得て、ストレス対処や趣味的活動の幅を広げる。

◎内容および活動の概要

・リラクゼーション、ストレス発散、リフレッシュを目的としたもの、体力づくりや栄養講座等の健康維持・増進を目的としたものを万遍なく取り入れ、幅広い内容を企画した。

・今年度は大規模改修の終了により三居沢に戻ったため、畑作りを再開した。

・リワークコースと合同での企画を何回か設け、両コースの交流の

	機会となった。																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実施日</th> <th>プログラム内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4/24 (月)</td> <td>畑作り①畑を耕す</td> </tr> <tr> <td>5/15 (火) 終日</td> <td>畑作り②買い出し、苗を植える</td> </tr> <tr> <td>5/29 (火)</td> <td>体力チェック①&運動グループワーク</td> </tr> <tr> <td>6/11 (月)</td> <td>アニマルセラピー (リワークコース合同)</td> </tr> <tr> <td>7/24 (火)</td> <td>タオライヤー</td> </tr> <tr> <td>8/3 (金)</td> <td>健康増進センター見学</td> </tr> <tr> <td>8/16 (木)</td> <td>パーカッション (リワークコース合同)</td> </tr> <tr> <td>9/18 (火)</td> <td>畑作り③まとめ、片付け</td> </tr> <tr> <td>10/18 (木)</td> <td>禅</td> </tr> <tr> <td>10/29 (月)</td> <td>ボクササイズ (リワークコース合同)</td> </tr> <tr> <td>11/30 (金)</td> <td>ストレッチ&身体についての講話</td> </tr> <tr> <td>12/21 (金)</td> <td>アートセラピー</td> </tr> <tr> <td>1/11 (金)</td> <td>はあとぼーとスタッフ演奏会</td> </tr> <tr> <td>1/31 (木)</td> <td>栄養講座</td> </tr> <tr> <td>2/15 (金)</td> <td>体力チェック②&運動グループワーク</td> </tr> <tr> <td>2/25 (月)</td> <td>ヨガ (リワークコース合同)</td> </tr> <tr> <td>3/18 (月)</td> <td>振り返り</td> </tr> </tbody> </table>	実施日	プログラム内容	4/24 (月)	畑作り①畑を耕す	5/15 (火) 終日	畑作り②買い出し、苗を植える	5/29 (火)	体力チェック①&運動グループワーク	6/11 (月)	アニマルセラピー (リワークコース合同)	7/24 (火)	タオライヤー	8/3 (金)	健康増進センター見学	8/16 (木)	パーカッション (リワークコース合同)	9/18 (火)	畑作り③まとめ、片付け	10/18 (木)	禅	10/29 (月)	ボクササイズ (リワークコース合同)	11/30 (金)	ストレッチ&身体についての講話	12/21 (金)	アートセラピー	1/11 (金)	はあとぼーとスタッフ演奏会	1/31 (木)	栄養講座	2/15 (金)	体力チェック②&運動グループワーク	2/25 (月)	ヨガ (リワークコース合同)	3/18 (月)	振り返り
実施日	プログラム内容																																				
4/24 (月)	畑作り①畑を耕す																																				
5/15 (火) 終日	畑作り②買い出し、苗を植える																																				
5/29 (火)	体力チェック①&運動グループワーク																																				
6/11 (月)	アニマルセラピー (リワークコース合同)																																				
7/24 (火)	タオライヤー																																				
8/3 (金)	健康増進センター見学																																				
8/16 (木)	パーカッション (リワークコース合同)																																				
9/18 (火)	畑作り③まとめ、片付け																																				
10/18 (木)	禅																																				
10/29 (月)	ボクササイズ (リワークコース合同)																																				
11/30 (金)	ストレッチ&身体についての講話																																				
12/21 (金)	アートセラピー																																				
1/11 (金)	はあとぼーとスタッフ演奏会																																				
1/31 (木)	栄養講座																																				
2/15 (金)	体力チェック②&運動グループワーク																																				
2/25 (月)	ヨガ (リワークコース合同)																																				
3/18 (月)	振り返り																																				

クラブ活動

	<p>◎ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集中力や持続力、生活技能を高め、自信につなげる。 ・対人交流を通して、協調性、仲間意識、自発性の向上を図る。 ・プログラムに継続して取り組むことで、達成感や充実感を得る。 ・様々な活動を通して、趣味的活動の幅を広げる。 <p>◎内容および活動の概要</p>
<p><創作></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均参加人数：7名 ・担当職員：1名 ・外部講師：あり 	<p><創作（週1回。全38回）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・編み物や羊毛フェルトを使った創作、レジンなど各々が希望する作業に分かれて活動を行った。その他、プラモデルや塗り絵などを持参して作業に取り組むメンバーも見られていた。 ・希望する作業を見つけられないメンバーは、講師の声掛けや手本を参考にしながら作業に取り組むことができていた。 ・創作の過程を通して集中力を養うと共に品物を完成させることで、達成感が得られていた。
<p><料理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均参加人数：8名 	<p><料理（月1回。全12回）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・偶数月は、講師（管理栄養士）が入り、作成された献立に沿って調

<ul style="list-style-type: none"> ・担当職員：4名 ・外部講師：あり (隔月、管理栄養士) <p><合同スポーツ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均参加人数：11名 (就労支援 4名 リワーク 7名) ・担当職員：2名 ・外部講師：あり <p><お茶会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均参加人数：7名 ・担当職員：4名 ・外部講師：あり <p><音楽></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均参加人数：6名 ・担当職員：1名 ・外部講師：あり 	<p>理し、家庭料理や普段、馴染みのない手の込んだ料理にも挑戦した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奇数月は、予めメンバーが決めたテーマに沿って栄養バランスや彩りを考えながら献立を作成し、調理した。 <p><合同スポーツ(週1回。全20回)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「就労支援・社会参加コース」「リワーク準備コース」の2コース合同とし、屋外と室内に分かれて実施した。 ・屋外はテニス、室内はプログラム参加者の希望で種目を決定し実施した。 ・月に1回、全員が屋外で講師の指導によるテニスを実施した。メンバーからは「テニスの基本を教えてもらい楽しさを知った」等の声が聞かれており、テニスを通し運動することにより気分転換など精神面での効果を実感できた。 <p><お茶会(全12回)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・掛け軸と花の確認→割り稽古→茶席(2~3席)の流れで実施した。 ・独特の緊張感で好みは分かれるものの、プログラムを通して関心を高めて茶会に参加したり、積極的にお点前チャレンジしたりするメンバーが多く見られた。1月には初釜としてお濃茶をいただくなど、新しい試みも行った。 <p><音楽(週1回。全35回)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員で発声練習の後、歌いたいメンバーが講師の伴奏に合わせて歌い、他のメンバーは曲に合わせて好きな楽器・パーカッションを演奏して盛り上げる。 ・音楽への関心の高まり、ストレス発散、メンバー間の交流の場となっている。今年度のオリジナル曲作りでは作曲にも挑戦し、達成感に繋がっていた。
<p>ここまるタイム(ミーティング)<全31回></p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・平均参加人数：8名 ・担当職員：4名 ・外部講師：なし 	<p>◎ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事の企画運営をメンバー自身が担うことで自発性や達成感を得る。 ・行事の話し合いを通して、コミュニケーション能力の向上を目指す。 <p>◎内容および活動の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各行事に向けた話し合い、作業、必要な物品の買い出し等を行った。 ・主張の仕方や異なる意見の折り合い方を学ぶ機会となった。 ・所内行事はメンバーの中から実行委員を募り、話し合いの進行、書記などを担うことで、主体的に活動できていた。
<p>自遊時間</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・平均参加人数：10名 ・担当職員：1~2名 	<p>◎ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診察・面接の待ち時間の過ごし方を自ら計画し、家での余暇活動を

<p>・外部講師：なし</p>	<p>含め、自主的に過ごせるようになる。</p> <p>◎内容及び活動の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書、談笑、音楽鑑賞、絵画などが多くみられた。職員との談笑、数名と一緒にゲームやものづくりをすることもあった。 ・取り組むことを決められないメンバーにはスタッフが介入してフォローした。 ・毎回、取り組む内容と感想を記入してもらい、その日の活動の振り返りを行った。
-----------------	---

③年間行事

概ね月1回の頻度で実施し、日常のデイケア活動に彩りを添えているのが年間行事である。メンバーの中には、家族や友人と出掛ける機会が少ない者もいて、日頃できないことが体験できる良い機会であるため、行事参加を楽しみにしている者も多い。年間行事の運営にあたっては、メンバーの主体性を大切にしながら、企画から携わり各自に役割を担ってもらい、役割遂行による達成感の獲得や、自己肯定感の向上につながるよう工夫しながら進めている。

<平成30年度年間行事実施状況>

開催日	行事名	内容	参加人数
H30年 5月11日	スポーツフェスティバル	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台市内のデイケアや福祉関連施設が集まり、スポーツを通して交流を図る毎年恒例の行事。 ・全5種目の競技のうち、当デイケアは、卓球、ソフトバレーボールに出場した。 ・ソフトバレーボールは他施設との合同チームだったが、事前練習にも参加してもらって交流できたことにより、親交が深まって当日も声をかけ合っていた。今回は選手以外も一緒に参加できるように応援にも力を入れ、事前に応援グッズを作成し、当日もメンバーが自主的に音頭を取って応援し、盛り上げていた。 	11名
7月19日 ～ 7月20日	宿泊訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・「伝統工芸の体験」「少し遠出してみよう」をテーマに、岩手県一関方面へ行った。 ・1日目は館ヶ森アーク牧場、サハラガラスパーク、巖美溪を周り、大東ふるさと分校に宿泊。コテージではバーベキューを行い、夕食後には懇親会を行った。2日目は猊鼻溪、みちのくあじさい園を散策した。 ・参加人数が多く、どのメンバーも関心を持って参加できるよう、適宜コースを複数設けた。当日も各自役割を担ってもらい、各々責任を持って取り組んでいた。 	14名

		<ul style="list-style-type: none"> ・不調のメンバーには休養を勧めて早めに寝る、精神科医が診察するなど適宜対応し、全員スケジュールを全うすることができていた。2日間やり遂げたことで、達成感や自信の回復につながっていた。 	
10月5日	デイケア祭	<ul style="list-style-type: none"> ・デイケア活動の成果を発表する場、メンバー同士が協力し合い一体感や達成感を得る機会、地域の方への普及・啓発の機会として毎年開催している。今年度は改修工事後の三居沢での開催となり、「はあとぽーと仙台ならではの特徴、内容を知ってもらう」をテーマに計画して進めた。 ・お茶席やものづくりのプログラム体験、バザー、ゲーム大会、軽音楽発表を実施した。当センターの紹介コーナーとしてパネル展示やアルコールパッチテストに加え、新たにクイズラリーも行った。来場者数は156名で、来場者の方々も楽しんでいる様子が見られ、メンバーも達成感や充実感を得ていた。 	18名
11月9日	仙台市精神障害者バレーボール大会	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回体育館スポーツを設け、後半は全員でバレーボールを行うことを習慣化し、基礎練習や練習試合を重ねてきた。 ・壮行会では応援チームをつくることで、選手以外のメンバーも参加しやすい雰囲気となっていた。 ・結果は2敗で最下位であったが、雰囲気が暗くならないようにユーモアを交えた言動で場を和ませるメンバーもおり、楽しくプレーできていた。 	11名
12月7日	野外活動	<ul style="list-style-type: none"> ・バスで宮城県登米市方面に行き、みやぎの明治村（教育資料館、水沢県庁記念館、警察資料館など）を見学した。 ・「低予算で旅先グルメを楽しもう」をテーマとし、行き先決め、調べ作業等、企画段階からメンバー主体となって実施した。当日は2コースに分かれて見学し、コースリーダーやバスの司会、点呼など役割を担って取り組んだ。 ・集団行動やバス移動が苦手なメンバーにとっては、不安を抱えつつも乗り越えられたことが自信の回復に役立っていた。 	14名

12月25日	忘年会	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員メンバーを中心に話し合いを進めた。 ・午前は買い出しと部屋の飾り付け、料理（グリルチキン、ピザ、スープ、サラダ）。午後はケーキを食べながらDVD観賞、プレゼント交換を行った。 ・年内最後のプログラムを“みんなで楽しむ”という一体感が生じていた。 	14名
H31年 1月24日	新年会	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員メンバーを中心に話し合いを進めた。 ・当日の午前は所内で書初めや人生ゲームを実施した。午後は愛宕神社と大崎八幡宮の2コースに分かれて初詣に外出した。行事を通して普段は接点がないメンバーとも交流する機会となっていた。 	5名
3月19日	春季パーティー	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員メンバーを中心に話し合いを進めた。 ・「平成最後のありがとう」をテーマに、昼食づくり（ちらし寿司、豚汁等）、写真スライド上映、ゲーム大会、軽音楽発表、外部講師への感謝状、記念撮影を行った。 ・事前準備から当日まで、メンバーで協力して行うことができ、達成感を感じていた。前年度に引き続き今年度も家族を招待し（4名参加）、講師や家族と楽しいひと時を過ごしながら感謝の気持ちを伝える良い機会となった。 	11名

④家族支援

ア. 家族懇談会の実施

◎ねらい

- ・病気及び障害の知識・理解を深めるための学習の場を提供する。
- ・当センターと家族との間で情報交換を行い、今後の本人の関わり方について考えていく。
- ・家族同士の交流を図り、相互支援の場とする。

◎実施状況

- ・デイケアメンバーの家族を対象に、奇数月の第4水曜日の午後に実施した。
- ・当所のメンバーの多くは家族と同居している。家族支援は、メンバーの社会復帰のための基盤固めであり、家族が病気や障害に関して理解を深めることや、家族との情報交換は、メンバーの治療にとっても欠かせないものである。また、単身生活のメンバーであっても、家族の支持と理解を得ることは、治療をすすめる上で非常に意味がある。
- ・5月の懇談会だよりの郵送時に、家族懇談会の内容に関するアンケートを実施してニーズを把握した。普段参加していない家族は講話形式や個別面談を希望し、参加している家族からはグループ懇談を希望する声があった。そのため、どちらの内容も取り入れて計画した。
- ・講話の回は、講話後に質疑応答や感想を共有する時間を作り理解を深め、日頃の大変さを話して発散したり、他家族の話も聴いて体験を共有できるようにした。

<家族懇談会実施状況>

	実施日	内容	参加人数
1	5月23日	年度始めの職員との顔合わせ デイケアプログラム体験「ストレスコーピング」	12名
2	7月25日	精神科医による講話 「病気とデイケアの効果等について」	7名
3	9月26日	グループ懇談	7名
4	11月28日	施設見学会「障害福祉サービスに関する社会資源について知る」 ・障害者相談支援事業所「ほっとすぺーす」 ・就労継続支援B型「パル三居沢」 ・自立訓練(生活訓練)・宿泊型自立訓練・短期入所 「ウインディ広瀬川」	5名
5	1月23日	はあとぼーと仙台デイケアの先輩による講話	2名
6	3月20日	家族の関わりについての講話、グループ懇談	4名

イ. 家族懇談会だよりの発行

2ヶ月に1回発行した。前回の家族懇談会の実施内容及び参加状況の報告、次回の家族懇談会の案内、メンバーの活動報告・紹介などを掲載した。

⑤アフターケア（OB支援）

相談件数内訳（延べ件数）

	相談延数	相談内容（重複あり）					
		生活報告	病気・薬	対人関係	再通所	仕事	その他
来 所	12	2	0	2	0	9	1
電 話	43	16	2	2	0	21	2
計	55	18	2	4	0	30	3

- ・デイケア終了後も電話と面接で相談に応じている。実人数は13名。
- ・複数回の相談があった方は、以前から固定している方が2名、終了1年以内の方が5名である。固定している方は単身者で、誰かと繋がってほしいという状況が推測される。
- ・昨年度、今年度終了した方の中には、卒業後も生活変化や離職など、困った時に相談することができていた。多くは困った事柄が解決され終了した。2名は継続的に頻回に相談が続いているが、傾聴や対処法の助言により安心する内容がほとんどであった。単発の相談で終了した者6名で、問い合わせへの対応や生活報告等への傾聴で安心して終了している。

⑥デイケア通所者についてのケース検討会

◎ねらい

- ・ケースの理解を深めデイケア指導に活かす。
- ・職員のスキルアップをはかる。

◎実施状況

- ・2ヶ月に1回、2時間枠で実施した。
- ・個別ケース検討や集団力動について検討し、デイケアとして個々人にどう働きかけていけばいいのかといった点を話し合い、関わりの視野を広げることができた。
- ・発達障害を持つメンバーの通所が目立ってきており、発達障害の理解をテーマとしたことで障害の基礎的な理解や事例を通しての捉え方などを深めることができた。
- ・年度末にレビューを実施し、支援方針の確認と今後の方向性を共有した。

<ケース検討会実施状況>

開催日	内 容
H30年4月25日	デイケアを集団としてとらえた場合のメンバー間の力動について考える①
6月27日	個別ケース検討
8月22日	発達障害を理解する（障害についての基礎的な理解）①
10月17日	デイケアを集団としてとらえた場合のメンバー間の力動について考える②
12月26日	発達障害を理解する（事例を通しての理解）②
H31年2月27日	ケースレビュー

(4) リワーク準備コースの指導内容

①通所者の特性

ア. 疾患別分類

うつ病の方が80%を占めている。

疾患名	人数
うつ病	20
適応障害	2
双極性感情障害	1
持続性身体表現性障害	1
過敏性腸症候群	1
合計	25

ウ. 通所者の状況

休職者を対象者としているが、一部離職者の受け入れも行なっている。今年度は通所中に離職し在籍継続したケースが1名いた。

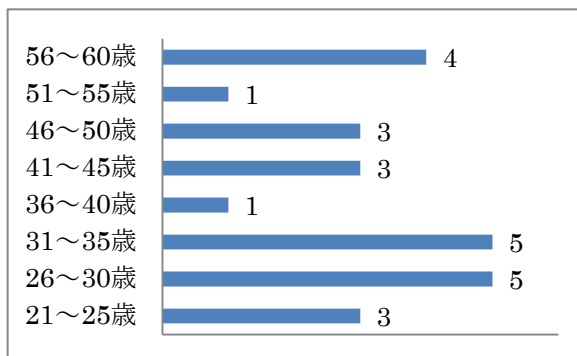
職種		人数	
休職者	民間	看護職	1
		事務職	4
		技術職・SE	7
		教員	1
		役員・管理職	2
	公務員	警察官	1
		教員	2
		事務職	4
		技術職	2
離職者	民間	技術職	1
合計		25	

カ. 紹介元医療機関

紹介元	人数
公的病院	2
民間病院	6
クリニック	17
合計	25

イ. 年齢

平均年齢は37.8歳。最年少は24歳、最年長は58歳である。



エ. 利用に至った経路

利用に至った経路	人数
医療機関	10
市政だより	5
家族の勧め	4
職場の勧め	6
合計	25

オ. 学歴

大卒者が18名(72%)である。

学歴	人数
大学卒	18
短大・高等専門学校卒	3
専門学校卒	3
大学院卒	1
合計	25

キ. 同居家族状況

同居家族状況	人数
単身	8
親	6
親・兄弟姉妹	2
配偶者	3
配偶者・子	6
合計	25

ク. 終了時状況

在籍者 25 名のうち年度内に終了したものは 20 名である。

終了時状況	人数
復職	1
休職継続	17
宮城障害者職業センター	1
離職	1
合計	20

②プログラム

リワーク準備コースでは 4 ヶ月（32 回）を 1 クールとし、年間 3 クールプログラムを実施した。※回数は 1 クールの回数

プログラム名	内容
心理教育 (全 4 回)	精神科医の講話を中心に、うつ病への理解を深め病気への対処を学ぶ。今年度は精神科医 1 名が月 1 回実施した。内容はリワーク準備コースの通所目的の確認（毎回）と「うつ病について」「薬の効果と副作用」「うつによって起こる考え」「不調になった時のサインと症状」となっている。
認知行動療法 (全 12 回)	職場でのネガティブなエピソードを認知モデルに沿ってアセスメントし、問題の整理と改善するための目標を設定する。目標に合わせて「認知再構成法」「問題解決技法」を実施する。「認知再構成法」では考え方の幅を広げ、「問題解決技法」で問題解決法の考え方、手順を取得する。前半は個人作業、後半は発表と意見交換を行う。
復職プラン作り (全 4 回)	復職準備チェックシートの記入及び報告とリハビリプランを作成する。リハビリプランは通所期間に応じた内容となり、経過の振り返り、職場復帰に向けた再発予防対策のまとめとなっている。前半はチェックシートの記入・プラン作成、後半はプランを発表し意見交換を行う。
コミュニケーション (全 4 回)	自分の気持ちや意見を上手に人に伝え、人とのコミュニケーションをより良いものにする方法をロールプレイなどを通して学ぶ。 「アサーションの基礎」「傾聴」「DESC 法」「エゴグラム」など
セルフケア (全 4 回)	これまでの経験や経過から、自身にとってのストレスについて振り返り、その対処法や今後の体調管理、より良い働き方について考える。前半は個人作業、後半はグループワークを行う。 ①「活動記録表について」 ②「ライフチャート作成」 ③「ストレスリストを作ろう（ライフチャートの振り返り）」

	④「働き方を振り返ろう」 ⑤「復職時のサポート体制」
グループワーク /ウォーキング (全4回)	前半はメンバーから話題提供されたテーマに沿った意見交換、後半は施設周辺の散策や、室内で軽運動を行う。今年度は移転による周辺環境の違いや利用人数が少ない時期があったため、グループワークの代わりとしてジョブリハーサル「カード情報収集作業」の実施や、ウォーキング・軽運動のみ実施する等利用者の状況に合わせ適宜プログラムを変更している。
職場復帰の準備 について (全1回)	外部講師（職業センターカウンセラー）による講話。復職に対する企業側の考え方や、復職に向け職場と話し合いを行う際の心構えについて聞く。
リラクゼーション (全2回)	スタッフによる講話やリラクセス法の体験と、外部講師によるヨガをそれぞれ1回ずつ行う。
新聞プレゼン (準備全2回) (発表全2回)	準備では関心のある新聞記事を要約し、感想・意見のまとめを個別作業で行い、発表では作成した記事のプレゼンテーションと意見交換を行った。準備と発表を1セットとし、2セット実施した。
OB 講話 (全1回)	リワーク準備コース OB による復職体験談を聞き、スムーズな復職活動に役立てることを目的に実施。前半は OB の講話、後半は OB と在籍者とのグループワークを行う。
書道 (全4回)	集中力を養うことを目的に外部講師の指導のもと行う。
合同スポーツ (毎週)	就労支援・社会参加コースと合同で実施。前半は個人毎にやりたい種目（卓球、バドミントン、バスケットボール等）を行った。後半は参加者全員でバレーボール、ボッチャ、卓球バレー等を行った。
食事と栄養 (全1回)	外部講師（管理栄養士）による講話。日常生活に必要な栄養素や、普段の食事で意識する点、手軽に野菜を取り入れる方法などについて聞く。
フリー (全2回)	メンバーの希望により活動内容を決定し実施する。

*その他

- ・個別面接：月1回程度、プログラム終了後に行なう。現在の状態の確認と復職に向けて、今後の課題などについて担当スタッフと話し合う。
- ・週間活動記録表：認知行動療法の一環として毎日記入し、ミーティング時に報告を行う。

③リワーク準備コース OB 支援

ア. リワーク準備コース OB 会

終了後の状況把握と、終了者同士の交流の場として「OB会」を開催した。年2回、リワーク終了後1年以内の方の他、在籍者にも声掛けしている。

<実施状況>

- 1.平成30年5月18日 時間：18時30分～20時30分
会場：青葉区中央市民センター
参加者数：OB・OG 5名、在籍者5名 計9名
- 2.平成30年11月16日 時間：18時30分～20時30分
会場：青葉区中央市民センター
参加者数：OB・OG 11名、在籍者1名 計12名

イ. OB 面接

終了者の復職後の定着支援を主として、電話と直接来所などで相談に応じている。

ウ. OB へのアンケート実施

終了後の状況把握と、終了者がアンケート調査を機に現在の生活、および心身の状態を振り返り、問題の早期発見、早期対処をし再発予防につながることを目的にアンケートを実施している。今年度は50名に対し51通を送付し25通(49%)の回答があった。対象者はリワーク準備コース終了後6ヵ月、1年、2年、3年経過者である。

【内訳（転帰のみ抜粋）】

	発送数	回答数	回答率	転帰			
				復職	休職	離職	再就職
6ヵ月後	14	8	57%	6	2	-	-
1年後	8	4	50%	4	-	-	-
2年後	15	7	47%	6	-	-	1
3年後	14	6	43%	5	1	-	-

④リワーク準備コース説明会

リワーク準備コースの広報、及び利用者拡大を図ることを目的に当センター内で開催している。周知方法は市政だよりの掲載、医療機関・市内関係各所への開催案内の送付である。

<実施状況>

- 1.平成30年6月19日 申込者4名 1名キャンセル
参加者3名 通所申込者2名
- 2.平成30年10月30日 申込者6名 1名欠席(別日対応)
参加者9名(うち同伴者4名) 通所申込者2名

3. 人材育成・教育研修

(1) 支援者及び関連機関担当職員を対象とした主催研修

①精神保健福祉基礎講座（初任者研修）

目的：精神保健福祉関係機関の初任者を対象に、地域精神保健福祉活動の実践に関する全般的かつ基本的な知識を提供し、資質向上を図るための技術支援を行う。

対象：精神保健福祉業務に携わる行政及び関係機関の職員（概ね経験3年以内）

会場：（前期） 仙台市職員研修所

（後期） 精神保健福祉総合センター 2階研修室

開催日時	内容及び講師	参加人数
(前期) 平成 30 年 5 月 22 日 10:00～17:00	講話 1 「精神疾患の理解について」 精神保健福祉総合センター主幹 原田 修一郎 講話 2 「精神疾患の理解～当事者の立場から」 健康福祉局障害者支援課 ピアサポーター2名 講話 3 「地域支援の実際～当事者視点の支援とは～」 向日葵ライフサポートセンター 精神保健福祉士 及川 恵里佳 氏 精神保健福祉総合センター 心理士 佐伯 涼香 講話 4 「当事者との出会い方～面接・電話の基本～」 東北福祉大学 准教授 志村 祐子 氏	91名
(後期) 平成 31 年 2 月 6 日 13:30～16:30	講話とグループワーク 「支援者としてのステップアップのために ～半年間の自分の変化を振り返る」 東北福祉大学 准教授 志村 祐子 氏	49名

②精神保健福祉担当実務者研修

目的：各区の精神保健福祉新任担当職員を対象に研修を行い、提供するサービスの内容や質の維持・向上を図る。

対象：各区障害高齢課、総合支所保健福祉課職員

会場：市役所上杉分庁舎第2会議室

開催日時	内容及び講師	参加人数
平成30年5月8日 10:00～15:00	講話1 「精神障害者保健福祉手帳・精神通院医療の事務処理」 精神保健福祉総合センター 黒田 智子 講話2 「医療保護入院等、精神医療審査会関係業務の事務処理」 精神保健福祉総合センター 菅野 美弥子 講話3 「措置入院にかかる緊急対応業務」 障害者支援課障害保健係 高橋 智幸 講話4 「移送制度にあたっての実務と対応」 障害者支援課障害保健係 佐藤 健太郎	19名

③思春期問題研修講座

目的：思春期の事例に関わる教職員や関係機関職員を対象に、思春期精神保健に関する基本的な知識を提供する。

対象：思春期の事例に関わる教職員や関係機関職員

会場：戦災復興記念館 5階会議室

開催日時	内容及び講師	参加人数
平成30年9月28日 14:00～17:00	「子どもたちの不適応行動の理解と対応」 第一部 講演 第二部 グループワーク 講師： 医療法人 五十嵐小児科 宮城県総合教育センター 不登校・発達支援相談室 仙台市スクールカウンセラー スーパーバイザー 宮城県臨床心理士会 スクールカウンセラー担当理事 臨床心理士 早川 典子 氏	81名

④その他の主催研修（詳細は各事業ページに掲載）

事業名	研修内容	参加人数
地域総合支援事業 (P. 58)	地域移行関連研修会の実施 (日本精神科看護協会宮城県支部と共催)	52名
地域総合支援事業 東日本大震災後 こころのケア (P. 65～66)	震災後心のケア従事者研修会 & 情報共有会 (障害者支援課主催)	6回 延 208名
	震災後心のケア支援事業担当者研修会	37名
	災害時メンタルヘルス研修会	58名
自殺予防関連事業 自殺予防情報センター (こころの絆センター) (P. 70)	自殺対策ゲートキーパー養成講座	67名
	地域自殺対策研修講座	85名
依存症関連事業 (P. 73)	依存症関連問題研修会	2回 延 110名

(2) 講師派遣依頼による研修（※詳細は各事業ページに掲載）

事業名	研修内容「テーマ」	依頼元	参加人数
依存症関連事業 (P. 74)	アルコール・薬物問題高校生講演会	市内高等学校 2校	高校生 計 486名
自殺予防関連事業 (P. 69～70)	地域におけるゲートキーパー研修	NPO 法人仙台夜まわりグループ	15名
		仙台市薬剤師会	90名
その他	生活保護新任現業職員基礎研修「精神障害について」	健康福祉局保護自立支援課	34名
	人権相談対応研修 「精神障害を有する方への対応方法」	仙台北務局	80名
	精神障害者支援研修 「精神疾患の理解・困難ケースの事例検討」	救護施設	24名
	平成 30 年度障害理解サポーター養成研修事業 障害当事者講師養成研修 「精神障害について」	(社福) 仙台市障害者福祉協会	13名

その他	障害者でんわ相談室専任相談員研修会「精神障害者へ電話相談対応のポイント」	宮城県障害者社会参加推進センター	8名
	職員育成推進担当者研修会「認知行動療法」	(社福) ゆうゆう舎	7名
	平成30年度初任総合教育「職場におけるメンタルヘルス」	宮城県消防学校	99名
	平成30年度消防職員専科教育警防科「職場のメンタルヘルスとラインケア」		24名
	平成30年度消防職員幹部教育初級幹部科「メンタルヘルスと惨事ストレス」		26名
	田子西三丁目介護予防教室 宮城野区堀切茶話会 「こころの健康について」	福田町地域包括支援センター	7名 15名
	太白管内給食施設衛生管理研修会 「メンタルヘルスの基礎知識」	太白区家庭健康課	69名
	仙台市青少年対策六機関合同会議「はあとぼーと仙台の支援の実際」	仙台市青少年対策六機関合同会議事務局	35名
	第19回こころの健康まつり 「こころの健康とセルフケア」	精神障害者を支える地域ネットワーク会議「あ・んの会」	100名
	仙台国際センター研修 「電話相談の基本的な対応と心構え」	文化観光局交流企画課	15名

4. 技術援助・技術指導

(1) 保健所及び関係機関に対する技術援助

	保健所	学校関係	障害者 支援施設	病院関係	その他	計
社会復帰	142	0	120	209	26	497
アルコール・薬物	35	0	1	29	18	83
思春期	2	0	0	0	4	6
被災者支援	260	10	0	0	0	270
学生教育実習	0	49	0	0	0	49
精神科病院実地指導	0	0	0	0	17	17
その他	133	0	155	186	98	572
計	572	59	276	424	163	1,494

(2) 仙台福祉事業所合同説明会

通所に関心はあるが一步を踏み出せずにいる精神疾患や障害を持つ方の社会復帰を促し、精神保健福祉分野のネットワークを構築する目的で、平成 21 年度から実行委員会を立ち上げ「作業所見学ツアー」を実施してきた。その中で、実行委員会より「より多くの方に、より多くの福祉事業所を知ってもらいたい」という声上がり、平成 26 年度より、市内の障害福祉事業所が集まりブース形式で事業所の紹介を行う、仙台市福祉事業所合同説明会を開催している。合同説明会には、精神保健福祉分野にとどまらない支援団体・事業所の参加・拡充が図られ、知的・身体・難病を含めた様々な障害等を持つ方が来場している。当センターは、福祉事業所から構成される実行委員会の事務局を担い、活動をバックアップしている。

日 時：平成 30 年 9 月 7 日（金）10:00～15:00

場 所：仙台市福祉プラザ 1 階プラザホール 運営／ブース参加団体：31 団体

来場者：227 名

平成 30 年度仙台福祉事業所合同説明会参加機関一覧（順不同）

パールいずみ、みどり工房永和台、アイエスエフネットベネフィット仙台、アビリティーズジャスコ仙台センター、アミークスカレッジ仙台、あしあと、オルタナ乙女、NPO 法人シャロームの会、株式会社イノセント、アトリエソキウス、カラフル、marue、Ricky クルーズ仙台青葉通り、Ricky クルーズあすと長町、サポートセンターひかり、就労・自立支援ひらく、Links 五橋、工房すぴか就労支援センターほっぷ、ぱれった・けやき宮城野、スイッチ・センダイ、就労支援センターひゅーまにあ仙台、就労支援センターひゅーまにあ仙台中央、就労支援センターひゅーまにあ広瀬川、すていじ仙台、スポーツ長町、スポーツ若林、ほっとたいむ、すまいるライフ南仙台、長町遊楽庵びすた〜り、びすた〜りフードマーケット、LITALICO ワークス仙台青葉、LITALICO ワークス東口、manaby 長町駅前、manaby 仙台駅前、manaby 泉、ウェルビー仙台駅前センター、くにみ工房、工房きまち、ファースト、ほっとハート、ほっとファーム愛子、ほっとファーム仙台、相談支援センターほっぷの木、相談支援事業所ねくすと国見、障害者相談支援事業所マリアージュ仙台、ハート、おもいやライフ、宮城障害者職業センター、仙台市障害者就労支援センター、仙台市難病サポートセンター、仙台市精神保健福祉団体連絡協議会、障害者総合支援センター、南部発達相談支援センター

(3) 関係機関主催の会議参加による技術援助

自治体または関連機関で主催する会議に参加した実績は以下のとおりである。

(※詳細は各事業ページに掲載)

主要な会議内容	詳細	回数
精神保健福祉ネットワーク事業	仙台市障害者自立支援協議会	5
	各区自立支援協議会	67
	宮城県自立支援協議会	2
自殺対策関連 (P.71)	自殺対策連絡協議会	3
	自殺総合対策庁内連絡会議	5
	仙台市自死ハイリスク者支援体制検討会議	5
医療観察法対象者支援関連 (P.59)	医療観察法適用者ケア会議	26
	宮城県医療観察制度運営連絡協議会	1
	医療観察法対象者家族会	3
地域移行支援関連 (P.57, 59)	精神障害者のための地域移行推進連絡会	11
	宮城県立精神医療センター「チーム医療委員会」	10
依存症関連 (P.75)	薬物依存症地域支援者ネットワーク協議会	10
被災者支援関連 (P.63)	被災者支援ワーキンググループ	10
	各区被災者ケースレビュー	30
ひきこもり関連 (P.78)	ひきこもり支援連絡協議会	11
その他	仙台市障害者施策推進協議会	3
	仙台市精神保健福祉審議会	1
	仙台市災害弔慰金制度委員会	1
	仙台市子どもの心のケア検討懇談会	1
	仙台市教育委員会 仙台市障害児就学支援委員会	5
	仙台市教育委員会 仙台市発達障害児教育検討専門家チーム	4
	仙台市教育委員会 児童生徒の心のケア推進委員会	2
	仙台市教育委員会 仙台市課題のある教員審査委員会	4

5. 組織育成

(※詳細は各事業ページに掲載)

事業名	内容
自殺対策予防関連 (P. 70)	若年層対象普及啓発活動 ボランティアサークル「YELL」

6. 普及啓発

(1) 広報活動

① 広報紙「はあとぼーと通信」の発行

発行	主な内容
< 第 56 号 > 平成 30 年 9 月 15 日発行	<ul style="list-style-type: none"> ・特集「精神科デイケアを知っていますか？」 ・「仙台市精神保健福祉総合センター（はあとぼーと仙台）の相談業務」 ・「ひきこもり講演会を開催しました」 ・「イベント情報」
< 第 57 号 > 平成 31 年 3 月 15 日発行	<ul style="list-style-type: none"> ・特集「自分の気持ちを上手に伝えるためのヒント」 ・「仙台市精神保健福祉総合センター（はあとぼーと仙台）の相談業務」 ・「デイケア祭を開催しました」 ・「ひきこもり当事者グループ フリースペース」 ・「ここまるのゲートキーパー講座」

② ホームページ作成

専用のホームページを作成し、広報及び普及啓発を行っている。
来所相談、電話相談の案内や主催講座の案内などのセンター情報の広報のほかに、メンタルヘルス情報のページを作成し、精神保健福祉に関する正しい知識の普及と啓発を図っている。

③ こころの健康づくりキャラクター「ここまる」

平成 24 年に、仙台市こころの健康づくりキャラクターとして誕生した「ここまる」は、若年層のための自死予防啓発サークル「YELL」の参加学生らによってプロフィールが加えられた。自殺予防週間ポスター、災害時地域精神保健福祉ガイドライン、各種リーフレット、



啓発グッズなど、仙台市におけるこころの健康に関する啓発に、センターの内外を問わず活躍している。

(2) その他の普及・啓発活動（※詳細は各事業ページに掲載）

- ・長期在院者に対する地域移行支援の啓発
- ・ホームページに災害時メンタルヘルスや仙台市災害時地域精神保健福祉ガイドラインに関する情報を掲載
- ・若年層を対象とした自殺予防対策普及啓発活動－ボランティアサークル「YELL」